

重要無形文化財結城紬研修生養成事業【茨城県結城市】

事例紹介

ふるさと雇用再生特別基金事業 【教育・文化分野】

- 国の重要無形文化財である結城紬は平成22年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。
- しかし、長引く経済不況や日本人の和装離れ等により生産反数は大幅に減少し、職人の高齢化や後継者不足も懸念されています。
- そのような中、重要無形文化財の技術保持団体である本場結城紬技術保持会が後継者養成事業を実施し、産地の伝統工芸技術の保存を図ることを目的とし実施いたしました。



事業概要

茨城県を代表する伝統工芸「結城紬」の後継者を養成するため、研修生を一般公募し、本場結城紬技術保持会の会員が指導することにより、産地内の後継者を養成していく。

委託先

本場結城紬技術保存会

新たな雇用創出数

3人

事業費

約604万円(23年度)

事業期間

平成23年5月～平成24年3月

事業内容

国の重要無形文化財に指定されている「糸つむぎ」「拵くり」「地機織り」の3工程を中心に、年間を通して、全てが手作業で行われる結城紬の制作技術を習得する。

【研修時間】月曜日～金曜日(週5日)9時30分～16時30分

国の重要無形文化財に指定されている3工程



糸つむぎ



拵くり



地機織り

結城紬の従事経験が2年未満の方を対象としましたが、応募のあったほとんどの方が女性で、従事経験は未経験の方々でした。



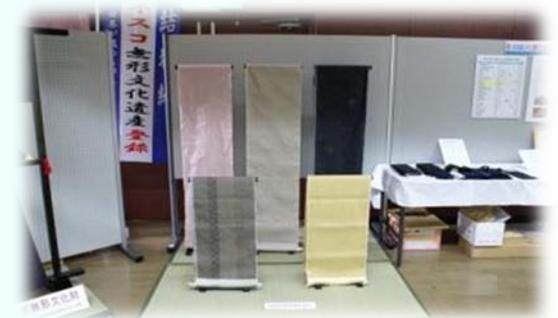
糸つむぎの研修風景



職人さんの家での実地研修



研修会場での地機織り



研修成果の展示PR

雇用者の
感想



全くの素人でしたが、優しい先生方のおかげで、1年間続けることができました。今後も結城紬制作に従事し、優れた職人になりたいと思います。



結城紬(反物)

はじめは慣れない作業に手間取っている様子でしたが、研修を重ねるごとにぐんぐん上達していきました。熱心に研修に取り組む姿勢に、教える側も熱が入りました。今後も結城紬に携わってもらえればと思います。



本場結城紬技術保持会
副会長 外山好夫さん

事業終了後の事業継続
・雇用継続への展開

- 平成24年度以降も同様の事業(「重要無形文化財伝承事業」)の実施を予定しています。
- 今後も、ふるさと雇用再生特別基金事業の経験を活かし、後継者養成事業を継続し、地域の誇る伝統工芸の技術を伝承していきたいと思ひます。

歴史と文化のまちづくり事業【福井県越前市】

事例紹介

ふるさと雇用再生特別基金事業 【教育・文化分野】

事業概要

越前市では、独自の地域性や特性をテーマとした市民が主体の文化事業「武生国際音楽祭」・「源氏物語アカデミー」・「万葉の里・恋のうた募集」が行われていますが、団体においてスタッフの確保や後継者の育成が課題となっているため、団体の事務局運営を行うものです。

委託先

(財)越前市文化振興・施設管理
事業団

新たな 雇用創出数

1人

事業費

約210万円(平成23年度)

事業期間

平成21年4月
～
平成24年3月



地域の文化・芸術活動の活性化を通して、まちを元気にし、知的で魅力あるまちの創造を目指します！

業務内容

3つの団体のスムーズな事務運営を行っています。

会議等の資料の作成や会議の運営

予算、決算等の会計管理

イベントのPR、参加者や短歌の募集

発表会やイベントの運営



事務室で黙々と作業をしています。

活動紹介

国際音楽祭では、文化施設だけでなく、学校、街中、寺社など、市内の各地でコンサートを行い、まちなかに音楽があふれ、市民が親しく音楽に接することができます。

紫式部とゆかりのあるこの地で、源氏物語アカデミーでは、源氏物語の世界と作者紫式部の生涯を、さまざまな角度からみた講義や公演を行い、全国からファンが集まっています。

越前市味真野地区が舞台となっている中臣宅守と狭野弟上娘子の恋物語を素材とし、全国から恋のうたを募集し、今年は過去最高の22,511首の応募がありました。

<http://www.manyounosato.com/>



銀行内でのコンサート



源氏物語アカデミー「越前大饗」
当時の食事を再現しています。

事業終了後の事業継続 ・雇用継続への展開

委託先の(財)越前市文化振興・施設管理事業団では、事業終了後も引き続き団体の事務局運営を行っていただき、地域の文化・芸術活動の活性化に取り組んでいただきます。